



シラネアオイ

小谷中学校だより



2023(令和5)年 いよいよスタート!

令和5年4月6日

本日、21名の新1年生を迎え、全校生徒59名で小谷中学校の令和5年度が始まりました。新しい4名を加えた17名の職員全員で、この自然豊かな小谷の地で、よく学び、よく考え、よい経験を重ねながら、自らの人生を、自ら切り開き、歩み進んでいける子どもを目指し、誠心誠意、教育活動にあたる所存です。中学生時代は、身体も心も成長する時期でもあるとともに、多感で、時には精神的に不安定になることがある年代です。そんな子どもたちを学校職員全員で、支援させていただきます。何か心配なことがございましたら、お気軽に学級担任または学校までお声がけください。また学校生活では、保護者や地域の皆様へのご協力を仰ぐことも多数ございます。皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



校長先生の入学式のお話

うらかな春の日射しを受け、芽吹きの日を迎えた今日の佳き日、小谷中学校入学式を挙げるにあたり、小谷村村長 中村 義明 様、小谷村議会議長 吉澤 学 様をはじめ、大勢のご来賓の皆様にご列席を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんは六ヶ年の小学校課程を修了し、本日晴れて中学生となりました。皆さんの胸の内はこれからの中学校生活への夢や希望が膨らんでいることと思います。ところで、小学校と中学校の違いを一言で言えば、小学校は「子どもの学校」であり、中学校は「大人になる準備をする学校」です。例えば、皆さんは今日から電車やバスに乗るときに大人料金を支払わなければならない、「中学生は決して子ども扱いしない宣言」を社会から告知されているようなものです。

つまり、中学校の三年間は、自己を確立するとともに、一人ひとり各自の可能性に磨きをかけ、大人になる準備をする期間であり、今日は、その「覚悟」を決める日なのです。

今から、大人になるために必要な二つのことについて話をします。

第一に、「自立」の精神を身につけることです。皆さんが送る中学校生活は、決して楽しいことばかりではありません。幾度となく迷い、悩むことも多々あるでしょう。その度に、自分で考え、自分で判断する力が、これまで以上に必要となってきます。その時のために、日頃から目標をもって、自分のできること、自信がもてることを一つ一つ増やしていきましょう。人と比べる必要はありません。焦る必要もありません。じっくりと自分磨きを続けるのです。

第二に、「協働」の心を身につけることです。自分を大切にすることが一番ですが、それと同じくらい周囲の人も大切にしてください。特に、自分と違うと思う人ほど大切にしてみてください。きっと、新たな発見があると思います。いろいろな人と出会い、認め合うことで、自分をより大きく成長させていくのです。この会場にいる保護者、地域の方々、先生方、先輩方が皆さんを全力で応援しています。

結びになりましたが、保護者の皆様、お子様のご入学、心よりお喜び申し上げます。中学生期は、自我が形成され個性が確立し、大人への第一歩を踏み出す大切な時期です。肉体的にも精神的にも逞しく成長する一方、些細なことからトラブルを起したり、自信を失ったりするなど、不安定になりがちな時期でもあります。学校は、生徒の学びの場であり、私たち教師は教育の専門家です。お子様の成長に資するよう最大限の努力をして参ります。しかし、個々のお子様のことを一番よく知るとともに最大の理解者はそれぞれのご家庭です。学校と家庭とが信頼し合い、協力関係を強く結ぶことは、お子様の成長のために必要不可欠と考えております。何卒、ご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

職員組織

《新任職員》



【個人情報保護のため省略】



このメンバーで 誠心誠意がんばります。よろしくお願いいたします！

【個人情報保護のため省略】



【校章 シラネアオイについて】



本校の校章は、雪の結晶とシラネアオイがモチーフです。シラネアオイ科の多年草で、別名ヤマフヨウ(山芙蓉)、ハルフヨウ(春芙蓉)とも呼ばれます。「雪を毛布代わりに冬を越す花」ともいわれ、開花時期が終わり、冬が近付くと地上部は枯れてしましますが、地下部のみで越冬するのが特徴です。4枚の花弁に見えるのは実は「がく(萼)」で、花弁がないのに美しく清らかな姿から、花言葉は「優美」「完全な美」となっています。1属1種の「日本固有種」でかつては「キンポウゲ科」に分類されていましたが、2020年に「シラネアオイ科」として位置づけられました。

世界中で日本にしかない花であり、雪の時期をたくましく越え、優美に咲くシラネアオイは、小谷中生に人生の生き方の一つの方向性を示しているのかもしれない。

文責：教頭